

平成30年度 第7回地方創生実践塾 in 長野県飯田市

「当事者意識から生まれる共生の仕組み～

内発的な発展を続ける飯田モデルを学ぶ～」

視察研修報告

田川市議会議員 植木 康太

さる平成30年10月19日～21日にかけて、地方自治の先進地である長野県飯田市で開催された標記実践塾に、全国から集った34名と共に参加した。現在東京から5時間かかる飯田市は人口101千人、面積660km²の広大な市で、時計や宇宙航空産業など精密機械の拠点として発展をとげている。建設中の中央リニアモーターカーが開通すれば東京から40分と、まさに東京の通勤圏に組み入れられる大きな発展要素を持っている地域である。

市制施行は昭和12年4月、昭和31～平成17年にかけて合併・編入を繰り返し、一般会計規模約450億円、議員定数は23名でまちづくりの先進地である。

センターが何故この不便な飯田にて実践塾を開催したのか、半信半疑ではあるが新幹線と在来特急を乗り継いで行ったが、現地を見て、話を聞いて、人々と触れ合っ、十分納得できるものとなった。

最大の収穫は「りんご」であった。飯田駅に着き、会場の飯田市公民館に向かって歩いていると、50mもあろうか広い道に出くわし目を疑った。なんと、街のど真ん中にリンゴ並木が連なり、更に、そこでリンゴの実がたわわに実っているのだ。旅のつれづれに一個、と思ひ近づくと、ふと、小さな可愛い看板が目飛び込んだ。「このリンゴは近くの中学生在が育てています。」と・・・あ、こりゃいかん、ちぎるわけにはいかんと考え直し、赤い可愛いリンゴの写真撮影となった。

塾の研修内容も、牧野光朗飯田市長の講もメインはこの「リンゴ並木」であった。

昭和22年の飯田大火で市の7割を焼失した飯田市、再興にあたって市のど真ん中に幅50mの延焼防止帯を十字型に造成した。街路の設計段階で地元中学校生徒から「自分たちの手で美しい街をつくろう」と提案がなされ、紆余曲折を経て、リンゴ並木が完成した。肝心なのはその先の管理、複数の小中学校が担当区域を決め、市民や農家の協力と共に60年以上もこの並木を守り続けている。最初は心ない市民もいてリンゴの実がちぎられた事も有ったそうですが、市民の不断の啓蒙活動の末、今では全くちぎる人はいなくなったと自慢げに話された。

今回の研修の結論でもあるが、地域づくりは「市民の参画・・・いかにして当事者意識を養うか」にあった。

市内20の公民館を地域づくりの核と位置付け、

- ・地区住民が自ら地域の将来像を共有し、その実現に向けた構想・計画を策定
- ・その計画に基づき、地域の特性を生かしつつ、多様な主体の協働による様々な取り組みを通じて、地区の将来像の実現を目指す。(全20地区中18地区で策定済み。その実現に取り組んでいる。残り



2地区も策定中。)

つまり、市民の「やりたい」を引き出し、人も金も付けて自分たちのまちづくりを、「当事者」として実現してゆく、素晴らしい地域づくりを実践されていた。

また、フィールドワークとして、山のまた山奥、遠山郷への視察、そして「COMMPASU HOUSE」と言う若者が経営しているシェアハウスにお邪魔した。話を聞いてびっくり仰天。何と20代の東京の大学を出た若者が、ここが気に入ったとIターン、狩猟の生活を営んでいるのだ。今日は鹿とイノシシがとれた、早速さばいて商品にした…、とかとんでもない話を話す。理解できないまま、今日の宿、島畑という地の「いろりの宿」でしし鍋と、まむし酒と「熊の胆」酒を飲まされ深い眠りに就いた。



講演後の昼食会で同席した牧野市長さんは日本開発銀行、フランクフルト事務所長として働いた経験豊かな市長さんで、精力的に人を活かし、企業を活かす術をいかに発揮されているようにお見受けした。

「百聞は一見にしかず」、このような貴重な機会を戴けたことに対し、市民の皆様にご心より感謝申し上げます。

平成30年11月
田川市議会議員 植木康太